

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科		
科目名称 [英語名称]	農業政策論 I [Agricultural Policy I]			実務経験 教員担当	アクティブ ラーニング	○	
科目コード	252700	授業形態	講義	単位数	2	配当学年	3年次
教員氏名	章 大寧			学位授与の方針 との関連	DP3(1) DP3(4)		
授業概要	<p>本講義の目的は農業政策論の役割と課題について理解を深めることである。そのためには、農業と食料に関わる現状を世界的な視点から幅広く知ることが最も重要である。</p> <p>世界は今、人口増加、飢餓と肥満、環境悪化や異常気象、農産物貿易摩擦など大変深刻な状況に直面し、これらの問題をどう解決するのか農業政策の真価が問われている。世界各国において、農業は食料の生産と供給だけではなく、地域社会・伝統文化の継承、さらに農業関連産業の発展に貢献し、多方面にわたって国民生活に重要な役割を果たすものである。最近では、環境保全や国土管理という視点から農業の多面的役割が見直され、環境保全の一環としても重要視されるようになってきている。経済のグローバル化に伴って農産物貿易に関する議論も盛んになっている。また食料の生産過程、流通・消費過程における様々な問題を抱えていることも事実であり、これらの点を踏まえることも農業政策論の展開にとって不可欠である。</p>						
関連する科目	農業政策論Ⅱ、農業経済学、農産物流通論、農業法人論						
授業の進め方と方法	<p>講義進行は、まず農業・食料に関連する諸問題のうち主要なテーマについて解説することが基本である。双方向学習やアクティブラーニングを重視し、講義の途中または講義後に、講義内容について受講者から質問を受けたり、意見を述べてもらう、またそれに対して質疑応答する。講義内容・質疑応答を参考に受講生に意見文を書かせ、提出させることもある。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義概要 2 農業の特殊性 3 農業政策の必要性 4 農業政策の目的と手段 5 日本の農業政策体系 6 食のグローバル化と世界の食料需給 7 多国籍企業の食料支配 8 食料消費の変化と食料安全保障 9 農産物食料品の流通・表示制度 10 農地政策—地租改正と農地改革 11 農業基本法・農地流動化政策 12 農産物貿易自由化政策 13 食料廃棄と食料資源の有効利用政策 14 食料銀行(Food Bank) 15 生ごみ資源化政策 						
授業の到達目標	<p>農業・食料に関わる主要政策や課題を認識すること。 現実に実施されている農業政策について理解すること。 農業政策論の対象領域、果たすべき役割、今後の課題について理解すること。</p>						
授業時間外の学修	<p>受講生各自が講義内容をより深く理解するために、授業内容の関連事項・重要テーマについて、宿題を課し、意見表やレポート提出等を求める。予習・復習を含めて必要な授業時間外の学修時間は週2時間程度。</p>						
課題に対するフィードバック	<p>課題報告やレポート提出については、作成方法、報告内容等について、代表的なものを取り上げて解説する。また質疑応答を通じて、受講生全員が理解を深めることにする。</p>			評価方法	課題レポート等 50% 期末試験 50%		
テキスト	なし。						
参考書	<p>「新版農業問題入門」田代洋一、大月書店 「食料環境政策学を学ぶ」明治大学農学部食料環境政策学科編、日本経済評論社 「食料・農業・農村白書」(及び同参考統計表)、農林水産省編、農林統計協会 「現代農業政策論」朱宗桓編、ハンウルアカデミ(韓国語) 「現代農業経済学—理論と政策」朴基赫・羅縉洙、博英社(韓国語) 「食と農の環境経済学」宇山満、昭和堂 「農業崩壊—誰が日本の食を救うのか—」吉田忠則、日経BP社 「本当はダメなアメリカ農業」菅正治、新潮新書</p>						
備考							